

# 月刊 あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり

2023/2/1 横須賀市教育委員会



2月号

教育委員の思い

前号まで、教育振興基本計画の策定に関わった検討委員会委員の皆さまの思いをご紹介しました。今回は、教育委員が抱く「横須賀の目指す教育の姿」への思いや、その実現に向けていただいたコメントをご紹介します。



荒川 由美子

教育委員会委員  
(教育長職務代理者)

## 子どもの良さを見つけ、伸ばしたい

子どもはどの子も固有の良さを持って生まれてきています。その良さを学校教育の中で見つけて伸ばしていくことが大切です。未来に向けては、あらゆる課題を克服していく必要があると思いますが、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら、信頼し、協力し合いながら子どもたちを育てていくことが、未来の子どもたちの幸せにつながると考えています。

## 子どもたちを育てていく大人が具現化を

教育フォーラムに参加された方々のご意見をお聞きしたり、検討委員会の皆さまが議論されてきた会議録を読ませていただいたりしましたが、これからの予測困難な社会を生きる子どもたちに必要なことを考え、一つ一つの言葉を大切に議論されていることが伝わってきました。

特に、目指す教育の姿の中に込められた言葉や基本的な方針の4つの項目は、大人である私も、自分はどうかであるか、考えさせられました。

今後、子どもたちを育てていく地域、保護者、教育に携わる大人が内容の具現化に

向けて取り組むことが重要になると思いますし、私もその一助になればと考えています。



澤田 真弓

教育委員会委員

## 誰一人取り残さない教育の実現を

2030年の横須賀の子どもたちには、自分と異なる人を認め合い多様な人々と協働して社会で活躍できる力を身に付けてもらいたいと思っています。

児童生徒が多様化し、学校がさまざまな課題を抱える中であっても決して誰一人取り残さないで、一人一人の能力・個性が発揮できる、誰もが大切な人であり、誰もが認められていると感じられる、そんな教育の実現に努めることが大切です。

## 皆でつくり上げた姿。具体的な施策を確実に

計画策定のプロセスでは、さまざまな世代のさまざまな立場の方と横須賀の教育の未来について、夢や理想を語り合いました。そして、単に夢や理想で終わらないように、その実現のための現状分析や方策など、さまざまな角度から話をしてまいりました。

(次ページへつづく)

(前ページからつづき)

その中では、これからの横須賀を担っていくであろう学生たちからの未来を見据えた、しっかりとした意見に驚かされたとともに、感銘を受けました。若者の強い力、勢いを感じました。

策定に関わった方が皆、自分たちのこと、我が横須賀のこととして真剣に考えてつくり上げたのがこの横須賀の目指す教育の姿であり、それを実現するための基本的な方針であると考えています。

横須賀の目指す教育の姿「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き」という文言は、誰にでも分かりやすく、親しみやすいフレーズであると思います。そして、その下にある基本方針、柱、さらにそれを具体的にした施策が位置付けられています。この具体的な施策をこれから確実に進めていかなければならないと思っています。



川邊 幹男

教育委員会委員

### 運動や食事に親しみ、健やかな体の育成を

未来の横須賀の子どもたちにも、生涯にわたり明るく楽しい生活を送ってほしいと願っています。

そのための基礎となる体力や健康はとても大事です。学校での教育はもちろん、家庭や地域での日ごろの生活においても、子どもが運動や食事に親しみ、大人が皆で見守りながら健やかな体が育成されていくという姿であってほしいと思います。

### 今後、どのように実践していくか

教育振興基本計画は、基本的な概念・方向性を示す横須賀の目指す教育の姿、そして、施策に取り組むための基本的な方針と、分かりやすく構成されていて良いと思いますが、では、今後どのように実践するかが

基本的な方針のところでは見えないので、重点課題のようなものを定めていくと、もっと運用しやすいものになるのではないかと思います。



元木 誠

教育委員会委員

### 豊かな創造性を備え、持続可能な社会の作り手に

ICTやAIなどが発展する中、今後どういった子どもを育てていくべきか、2030年を見据える上で欠かせない観点ではないでしょうか。AIに使われるのではなく、AIを使う人間、AIを作る人間に育ててほしいと思います。

ICTを活用した教育により子どもたちが豊かな創造性を備え、持続可能な社会の作り手として育っていける教育を実現してほしいと思います。

### ICTを活用した教育により目指す姿の実現を

1人1台のタブレット端末の整備が完了し、今後ICTを活用した教育により、学びも変わってくると思います。一人一人の理解度、興味・関心などを考慮した適応学習により、個々の能力を最大限に伸ばせると思いますし、情報共有ツールやウェブ会議システムを活用した双方向授業、対話的な学び、思考を深める学びも増加します。

もちろん、教員の育成、情報モラル、情報セキュリティに関する教育などさまざまな課題がありますが、2030年を見据え、学校と家庭、地域の方々とは協力し合いながら、ICTを活用した教育により子どもたちが自立心と主体性を持ち、多様性を認めることのできる人に育ててほしいと思います。



次号「市長・教育長の思い」へ続く

